景観に対する認識が景観評価にもたらす影響に関する考察*

Consideration concerning influence that recognition to spectacle brings to spectacle evaluation*

木村　一裕**・清水　浩志郎***・武田　公希****

By Kazuhiro KIMURA**・Koushirou SHIMIZU***・Hiroki TAKEDA****

1.はじめに

私たちが生活をしていくうえで、景観というものは少なからずこの私たちの生活に影響を与えていることは確かである。近年、景観緑三法の制定など、都市を中心とした景観整備に対する関心がますます高まってきている。景観から受ける印象は、それを見る人によってさまざまであり、ある人にとって好ましくない景観が，別の人にとってはとくに問題のある景観には思えないことがある。このように景観の評価は、その人の景観に対する経験を反映したものであることは避けられない。その意味で、景観に対する評価をするのみならず、評価結果とその人の景観に対する経験との関係を理解することは、好ましい景観の形成や啓発活動においても有効と考えられる。本研究では、個人レベルにおいての景観に対する評価とその評価に影響を与えると思われる個人の景観に対する認識、背景について考察することを目的としている。

2.既往研究と本研究の位置づけ

これまで過去に行われている研究では、景観についてどのようなものが好まれているのか、対象者別で景観に対しての好みなどがどのように違うのか、などということがさまざまに場所を変え、対象者を変えることによって行われてきている。どのようなものが好まれるか対象者別での違いを調べるということで、多くのデータが必要なため、このような研究はアンケート表を配布した、アンケート調査を実施しているものが多い。たとえば、絹原氏ら[1)]の研究では、歴史的な街並みについて出身の違いで景観認識をみており、好みの景観要素について述べられている。好みの景観要素を調べた上でなぜ好まれるかという背景を調べる必要性も考えられる。その中で、インタビュー調査も行っている姫野氏ら[2)]による研究では、観光地について印象的な景観の特性を分析している。この研究では、イメージスケッチを描かせたり、イメージボキャブラリーとしてインタビュー内にでてきた語彙を単語単位でグルーピングするなど、ユニークな分析も取り入れられている。ここで、なぜ印象に残っているのかという部分を深く知ることも重要であると考えられる。また、島児氏ら[3)]は歌謡曲の情景描写から景観構成要素を抜き出し、人々がもつ駅空間のイメージの研究を行っている。歌謡曲という馴染みのあるものからのイメージをつかむことで、多くの人に親しまれる空間をつくることは重要であると考えられる。本研究では、景観に対する好みの背景として考えられる、景観に対しての経験や認識といったもの調べ、なぜこのような景観に対する認識、好みに繋がっていったのかということを明らかにするものである。これからの景観形成において、好みなどの背景にある認識や経験を知ることは重要なことである。

3.調査概要

本研究では、景観に対する評価とその背景にある景観経験や景観に対する認識を知るために、インタビューによって自由に話してもらう方法をとった。景観に対する評価の背景として関係してあるであろう経験などを聞き出すため、直接対話をし、深い意見までも聞き出せるであろうインタビュー調査を行うこととした。まずは、景観に対しての評価とその理由を聞くために、4 枚の景観の写真を用意し、好みや気になる点などを聞き、さらにその理由を聞いている。次にふたつ目の質問として、景観に対する経験や意識、考えといった景観の背景となっていることを知るために、景観というテーマにおいて被験者が思うこと、考えることなどを自由に語っていただいた。本研究において行ったインタビュー調査の調査概要を表-1 に示している。そして調査対象者については，景観に対する経験などを考慮して依頼した。今回インタビューを行った７名の調査対象者の属性、経験等を表-2 に示している。日ごろから景観の業務に携わっている方や、建築の立場から景観を考えている方のほか、学生、その学生の中でも、関心事や経験といったものは、それぞれ多様なものとなっている。

---

*キーワーズ：景観、認識、経験、

**正員、博（工）、秋田大学土木環境工学科、教授
秋田市手形学園町 1-1、Tel：018-889-2368
e-mail：kzkimura@ce.akita-u.ac.jp
***フェロー、工博、秋田大学、名誉教授
****学生員、工修、秋田大学大学院土木環境工学専攻

表-1 調査概要

調査日	2005年1月
対象者	・学生3人・建築家1人・建設コンサルタント1人 ・市民2人
人数	7人
調査方法	景観評価写真を用いての1対1のインタビュー調査
調査項目	・景観写真についての評価 ・評価の理由、意見 ・景観についての自由回答
景観評価写真	①秋田県男鹿市 ②埼玉県川越市 ③愛知県名古屋市有松宿 ④滋賀県長浜市

表-2 インタビュー対象者の属性

学生A	・自転車で新潟まで行った経験から海沿いは気持ちいい 。 ・散歩コースを持つほど散歩が好き。川の近くが気持ちいい 。 ・自然の気持ち良さを感じることができる経験が多い。
学生B	・電柱、標識、歩道の危険が気になるなどドライバーの視点。 ・いくら良い景観でも飽きはくるのでギャップが大事。
学生C	・旅行経験や出身地の景観など様々な地方を記憶している。 ・詳しくないと良さが分かりづらい歴史よりも見た目ですぐ良さが分かる自然が好き。
建築家D	・仕事柄、建築物あっての景観という考え。 ・デザイン、文化、賑わいなど都市に魅力を感じている。 ・印象に残っている景観はニューヨーク街並み
建設コンサルタントE	・仕事柄様々な整備、設計を行っており、専門知識がある。 ・仕事経験から調和だけでなく賑わいの大切さも実感。
市民F	・FとGは似た経験をしており、ヨーロッパでの街並みから日本の統一感の無さを実感した。
市民G	・FとGは似た経験をしており、外国旅行の経験から日本と比較。 ・子供の頃の育った景観から自然と同居した街を好む。

4.景観に対する評価、理由とその背景

写真-1 に示す４つの景観について、好きなところ、嫌いなところといった好みや気になるところなどの指摘点、そしてその理由などを聞いた。この調査においては、指摘場所を多く示してもらい、個人の景観に対する背景などを知るということが重要である。そのため、調査に使用した写真は、指摘しやすいものを中心に選んでおり、より多くの人の経験や背景に対応できるように、自然のある景観、整備された街並み、歴史的な街並みなどのような種類を分けた。ここでは、指摘した場所と評価、そしてそれに関わるであろう個人の経験などの背景とをまとめたものとして、図-1、図-2 にそれぞれ秋田県男鹿市の写真、滋賀県長浜市の写真を使い、示す。写真に直接しるしが付けられたところが指摘場所であり、太い点線が否定的意見、太線が肯定的意見、四角の太線が理由の背景、点線が意見を言った人物となるように順番に線を派生させている。以下、各景観についてインタビュー調査から得られた特徴を述べる。

秋田県男鹿市

埼玉県川越市

愛知県名古屋市有松宿

滋賀県長浜市

写真-1 景観評価写真

(1)秋田県男鹿市

評価として自然と人工物に大きく分かれた。全体的な評価としてはもっと自然を生かすべきという指摘が多い。ここで、評価とそれに関する個人の経験から見てみると、実際の仕事での道路整備や道路計画に携わったという経験をもつという背景から、道路脇や植栽の処理という特殊な指摘点がみられた。これは、実際に経験していることで分かる、その人個人の特徴的な指摘点である。ある学生の意見から見てみると、個別のものではなく山並みや街並みといった大きな景色で捉えていたことも他とは異なった指摘点であり、さらに、評価理由においても「すがすがしい」などの自分の気持ちよさに関するものがみられる。このことは、よく散歩をする、歩くなら自然があったほうがいい、川の近くが気持ちいい、という発言や、ドライヴや自転車で秋田から新潟まで行った経験から、海沿いが気持ちいい、自然の良さはドライヴなどでよく感じる、という発言がみられ、このように自然の気持ちよさを感じることのできる経験を多くしていることから、この景観に対する評価に繋がっていることが分かる。

(2)埼玉県川越市

建物に関する指摘、意見がかなり多かった。その仲でも建築家Ｄは自己の経験や考えを背景に，瓦屋根の細かい部分や建物の造り、雰囲気に至るまでを指摘していた。ここは指摘点，認識ともにほかとは異なるものであった。建築家としての仕事上の経験や関心・考えといったものが評価に結びついていることが顕著に表れていた。街灯に関しては好みも分かれ、その理由もにぎわいの視点，車をよく運転するということからのドライバーの意見としての情報の視点など、個人の持つ背景や関心のある事柄の違いがみられた。

(3)愛知県名古屋市有松宿

景観として良いという意見が多い。否定的意見は電柱や電線に集中したが、他の人とは違い電柱の色に注目した肯定的意見というものもみられた。また、道路の舗装や側溝、マンホールという細かいものまで指摘した意見もあった。これは、仕事での経験や普段から景色を見ることや散歩が好きといった背景がある人たちの意見となっている。

(4)滋賀県長浜市

評価において特徴的であったことは、街並み、雰囲気に関する意見が大きく否定、肯定に分かれたということである。否定的な評価理由としては、のぼりや看板をうるさいとするものであった。肯定的なものとしては、賑わいや雰囲気というものである。ここで、個人の背景をみてみると、否定的な評価をした人からは外国旅行の経験が挙げられた。外国では統一感のある街並みが多く大変感動し、住民の意識も街づくりに積極的で意識が一致しているようである、という外国の街並みへの感想があったことから、この街並みに関しては否定的な意見を持ったと考えられる。肯定的な評価をした人からは、実際の設計において公共物なので地味な色になるからほかの部分も地味にしようとグレートーンで合わせると決めた、そしたら賑わいがなくなってしまった、やはり人がいての景観ということも考えなければいけないと実感、との意見があった。この仕事での経験というものが背景としてこのような評価をする大きな要因となっていることが分かる。

(5)景観写真全体において

使用した写真を通して、景観に対する意見や考えが特徴的なものとして、歴史、整備・処理、調和、気持ちというものが挙げられる。この項目に対応した意見・背景をまとめたものを表-3 に示す。

表-3 景観に対する評価･背景

指摘の種類	意見･背景
歴史	歴史に関する意見は建物に関するものが多い。仕事経験、知識があり、深い意見、考えを持つ人。ほかには、単純に懐かしさを感じることから歴史を感じさせる景色は好きという意見がある。これは、歴史的なことは分からないが、映画などの影響があるという。さらには、歴史的な知識がないのであまり興味がないという意見もある。
整備･処理	仕事での実際の経験、計画系の学生の研究上の関わり、などから道路の舗装、道路脇の処理、電柱の色の処理など気づきにくい部分が挙げられている。一方、そのような経験、関わりがない人からの意見、指摘はほとんどない。
調和	看板、電柱、街のつくりなど調和に関する意見は多い。意見の質も、なんとなく、というものから仕事、外国旅行の経験を生かしたものまで幅広いものになっている。やはり、調和を気にするきっかけになった経験をもつ人の方が調和に関して意見が多いし、気づきにくいところまで気づくことできている。
気持ち	例えば、山並み、街並みなど大きくものごとを捉え、自分の気持ちの良さを表す意見は、景色を見るという経験を多くしている、景色を見る機会がある、その中で実際に感動する経験をしている、ということが挙げられた。

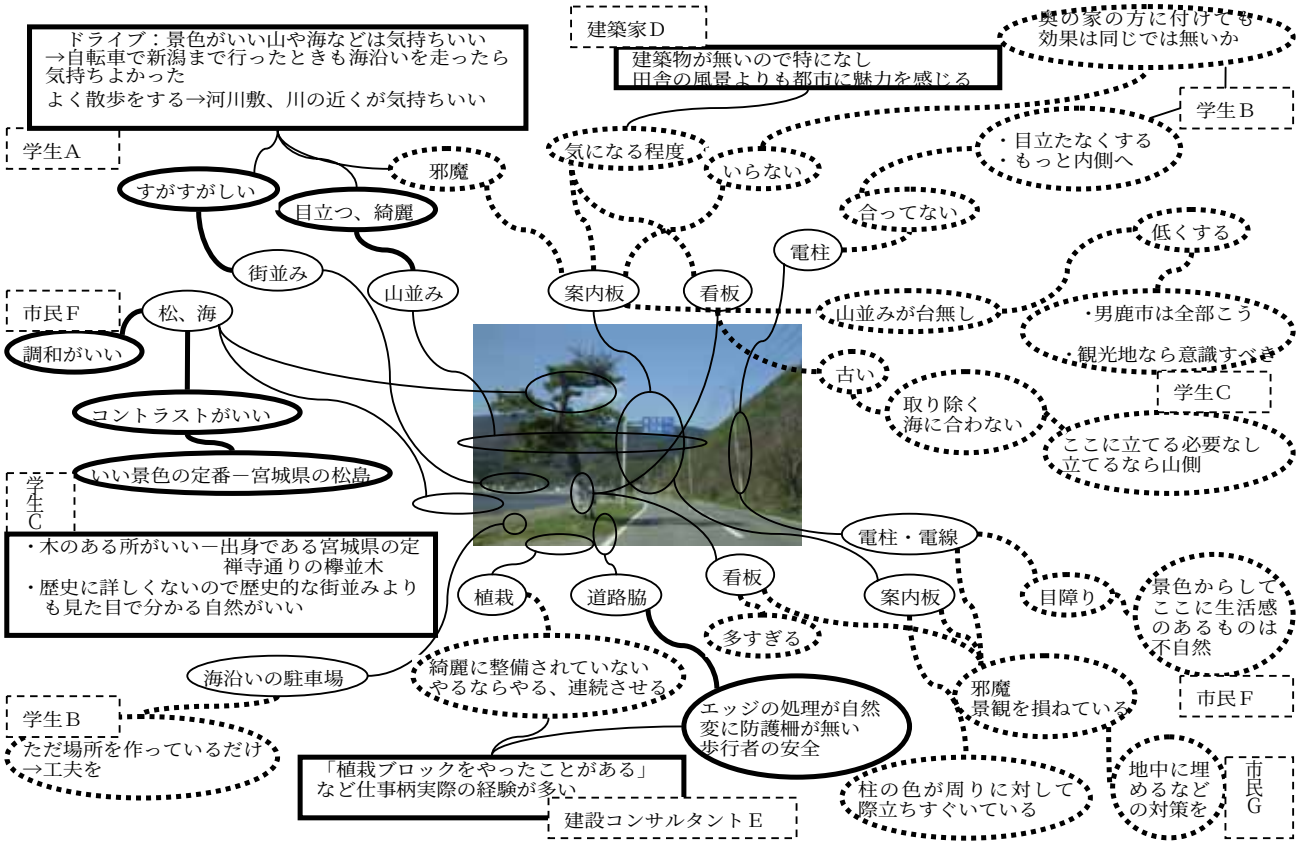

図-1 景観に対する評価、理由とその背景 (写真①秋田県男鹿市)

5.まとめ

今回の研究において行ったインタビュー調査の結果から、人々の景観に対する評価というものは，その人個人の今までどのような景観に触れてきたか、見てきたかといった景観に対する経験や景観に対する意識、考え、関心といった認識、価値観などのその人の背景にあるものとの密接な関係があることがうかがえた。公共空間である都市や農村、そして自然景観では、多くの人にとって好ましい景観であることが求められる。その意味で、景観について、市民がより豊富な経験を持ち、景観の好ましさについて高い関心をもつことが望まれる。とくに教育面において、幼い頃から美しい景観をみたり、そうした環境においてさまざまな経験をすることが重要であると思われる。そうすることが今後、好ましい景観の形成や啓発活動においても有効になると考えられ、景観形成において、多くの人々が納得して、より活発に景観について考え、行動できるのではないかと考えられる。さらに、本研究での結果より、今後は教育や人間の心理というものについても関係していることから今後、教育学、心理学の分野に関しても研究を進めていく必要がある。このような研究の結果などを今後多くの人にみてもらい、理解してもらうことによってはじめて、好ましい景観の形成や啓発活動に繋がると思われる。

参考文献

1) 絹原一寛,鳴海邦碩,澤木昌典 ： 歴史的町並みを持つ地方都市に対する出身者の景観認識に関する研究-兵庫県出石町を事例として- ，日本都市計画学会学術研究論文集,No.36,pp.739-744,2001.

2) 姫野由香,佐藤誠治,小林祐司,金貴煥 ： イメージスケッチを用いた観光地における印象的な景観場の特性分析,都市計画論文集,No.38-3 ，pp.727-732,2003.

3) 島児伸次,仲間浩一,岡田昌彰 ： 歌謡曲の情景描写からみた駅空間のイメージに関する基礎的研究，No.29,pp.589-594,1994.

図-2 景観に対する評価、理由とその背景 (写真④滋賀県長浜市)